

(別添 3)

**【潮来市】
校務DX計画**

【現状】

潮来市では、令和2年度から全庁的にペーパーレス化に取り組んでおり、教育委員会においても定例会の資料をタブレットで配布する等の成果は出ている。また、令和5年度からは校務支援システムの導入をすることで、業務の効率化を図ってきた。しかし、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、クラウドツールの活用、FAXでのやり取りの廃止、押印の見直し、校務支援システムへの名簿情報等の不必要な手入力作業の一掃において不十分な点があり、校務の効率化・完全なペーパーレス化へは課題が残っている状況である。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を踏まえても、これらの課題について早急に解決に向けて検討が必要と捉えている。

【課題】

(1) クラウドツールの活用

潮来市では、「Google Workspace」等のクラウドツールを活用した学習等が進んでいるが、校務としては生徒の欠席・遅刻等に関する保護者とのやりとり等において、学校と保護者を結ぶクラウドツールの活用が一部学校で進んでいるが、全学校での実施はされていない。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

学校では、一部業務においてFAXでのやり取りが慣行として行われている状況のため、廃止が難しい状況にある。

教育委員会と学校間でのやり取りについては、基本的に押印の廃止を行っているが、通知表への校長印の押印等、一部業務において押印を行っている状況にある。

(3) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

当市では、校務支援システム上の新入児童名簿を教育委員会で作成する等、学校側での不必要な手入力作業を削減するように努めている。

【取組方針】

現状と課題から潮来市では、下記の通り校務DX推進を図っていく。

(1) クラウドツールの整備・活用

校務支援アプリ等を活用し、保護者からの欠席・遅刻等による電話対応の削減を目指す。それにより、教職員の日常業務の負担軽減を図る。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

FAXは原則使用しない方針とし、校務支援システムやメールを使ったやりとりなどで対応できないかを継続的に働きかけていく。

押印については、全ての業務において廃止ができるよう、検討を進めていく。

(3) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃については、当面のKPIを達成するよう検討する。

(4) 次期校務支援システムへの移行

次期校務支援システムへの移行に向けて、校務系・学習系ネットワークの統合によるデータ連携の準備を進める。